ロッキーのHP→ www.liverocky.com

PICKIN' SINGIN' Rocky Top GINZA かわら版 第123号

2011 5.17 発刊

Yeah! マネージャー No82

ロッキー怪現象の巻その② 作 チーフ井上

拝啓 May

2011年3月11日 PM2:45. この時のこの国はあらゆる物事が根底からひっくり返り、命、幸福とは？と考え直し、出発していくきっかけになったような気がする。まだまだ時間がかかることとなるが、「ただ生きていく」それだけの事の重さを胆に持って知ることとなるだろう。

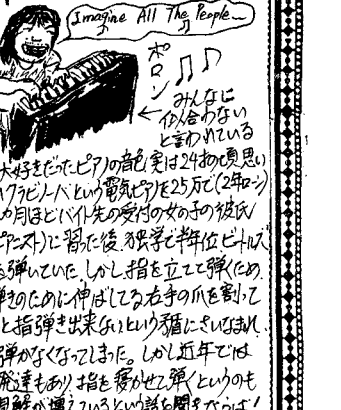
貸切のパーティーなど相談ください！

マスター田口の不幸デラックスコーナー

ささいな事で思い悩むせん細なハートの持ち主のマスター田口だが、この度もハートの細やかさといかが器の小ささともとれる出来事があった…

ピザソース事件…ある日ピザを作ろうとしたスタッフ一人はピザソースがなくて作れないことを報告した→

チーフ井上ピアノを再度始める！



昔から実は大好きだったピアノの音色、実は24才の頃思い立って、ヤマハクラビノーバという電気ピアノを25万で(2年ローン)購入し、2ヶ月ほどバイト先の受付の女の子の彼氏(クラシックピアニスト)に習った後、独学で半年位ビートルズやなんやらを弾いていた。しかし指を立てて弾くため、ギターの指弾きのために伸ばしてる右手の爪を割ってしまい、弾くと指弾き出来ないという猫にさいなまれ、結果的に弾かなくなってしまった。しかし近年では電子ピアノの発達もあり、指を寝かせて弾くというのもアリだという見解が増えているという話を聞き、ならば！と再度44才にしてピアノを弾き始めた。初めの曲はもちろんジョン・レノンのImagineだ。これが弾きたくて始めたのだからなんて恥ずかしながらショパンも練習している。NHK教育テレビでやっていた「初心者でも弾けるショパン」を全て録画し、テキストも買い練習している。本人はとても楽しくやってたんって満喫しているのだが、ある時点に→ 面白くならないのーつかえてばかりのピアノと言われ、へこみ。 嫌がらせる弾いちゃうな！ 要がい時はハルオンとなるとく白そである。

Pick Up Live!

6/2(木) **バリンジャーファミリー** (from アメリカ)
15年程前に来日したクラスターブラッカーズのクリスとデールのバリンジャー夫妻と息子で特筆すべき感性を持ったイーサンバリンジャーのマンドリン、そして注目のマルチプレイヤーマットフリーナーのバンジョーを加えての4人編成です。夫妻のトラッドからコンテンポラリーまでちょっと癒されるインテリジェンスあふれるボーカルに漫談！バテクニシャンのプレイが妙にマッチした本場特のサウンドを作り出します。BC 予約4500円 当日5000円

6/4(土) **ともさきキングス** (from 大阪) BC ¥2000
合言葉はブルーグラス！とにかく楽しいオリジナルソングの数々とそのステージワークは必見だ！

6/5(日) **Leona and The Johns CD発売記念ライブ** (from アメリカ)
Leona (F.Vo) Jp.Mathes (Banjo/V.) John Suites (G.Vo) John Moore Wham (Bass.Vo)
アメリカのテネシー州ヘンブルーグラス留学したLeonaがついにソロCDデビュー。国本武春のバンジョー弾きで日本でもあるJpを含む東テネシー大学出身の音楽仲間を引き連れ、6年ぶりの日本ツアーを決行。「本場アパラチアのサウンド」でお届けいたします。BC ¥3500

6/18(土) **オールザットグラス** (from 名古屋) BC ¥2000
稲葉和裕さん(Vo)のお兄さんのバンド名古屋で大人気！

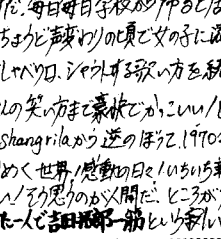
6/25(土) **トリッピングラスユニオン** (from 大阪) BC ¥3000
今富(Vo.G) **谷村**(M) **スポ**(Bass) **ヤンドレ**(Vo) **吉岡**(B)
日本のレッドアロン今富さんの野太い本物が響き渡る！

7/3(日) **ケルティック フィドルスペシャルナイト**
RINKA 大福座 BC ¥2500
RINKA-アイルランドに伝わる美しいメロディージグやリールなど様々なリズムのダンス曲を中心に幅広いレパトリーを持つ2人組ユニット
大福座-アイルランド村長、ギター・ウクレレ 太田弘行のユニット スコットランド伝統音楽を時間しがらアイルランド・ジャズ・シャンソン・カントリー・ハワイアンなどあらゆる音楽幅広いジャンルを演り尽くすマルチプレイヤーのギター・ウクレレのコンビ。

チーフ井上の音楽よもやま話 ⑥

…人生で出会った音楽、それはまさに縁である。その縁の糸をたどり、いかにして今の人生につながっているか？というよもやま話を書き綴りたいと思います。

たった一人で吉田拓郎一筋！…「Shangrila」というアルバムから吉田拓郎という音楽にハマりこんだ僕はそこからとにかく拓郎一筋になる。14才の僕でした。あの頃は色々と不思議な事があり、おそらく吉田拓郎電波を発信してる僕の波動がメディアに出る拓郎さんと共鳴していたのでしょう。ラジオをつけると拓郎の曲がかかったり、ライブの中継がちょうど始まるとこだったり、雑誌を見ても「吉田拓郎」という文字がばっ！と目に飛びこんできたり…。そして何とも不思議なのはオールナイトニッポン金曜日の担当が長渕剛から吉田拓郎に変わったのだ！約2時間、拓郎さんというのとにかく面白いしゃべりを夜中にくすくす笑いながら聞いていたともやす少年がいた。土曜日の夜はヤングタウン東京というラジオ番組で確か夜10:00〜12:00拓郎さんと小室等さん。このコンビがこれまた最高に面白かった。小室さんというキャラクターがこの番組によって植えつけられたが、小室さんにとっては拓郎さんにとらなければ（くん）小室さーん！と呼ばれ違和感したかもしれない。拓郎を好きになれば誰だってとにかくギターが弾きたくなるわけで、僕ももちろん親に「ギターを買って下さい！」と種々ねだるわけだが、うちの親父は昭和9年生まれ、最後の旧制中学世代のひねくれ者。今時「ギターを弾けたら不良になる」という言葉を真正面からぶつけてくる堅物だった。一度ダメ！だと言ったら何が何でもダメな頑固者なので、井上少年はギターが死ぬほど欲しい！という衝動を押さえるしかない…ただ、だけど拓郎を歌いたい！すると、どういうことになるかというとフリーハンドで歌うというフォークからぬけるスタイルをとらざるを得ないわけだ。毎日毎日学校から帰ると居間のステレオに拓郎ソングをかけて片っぱしから歌いまくる日々。僕の声は少しずつ低音に変化していったのだ。



なしゃべりロ、シャウトする歌い方を続けてるうちに拓郎ボイス。拓郎さんの笑い方まで真似してかっこいい！と思い、真似しようとなんとなく、よく分からぬまま、今やほとんど地になってしまった。そしてShangrilaから逆のほうで、1970年代の拓郎アルバムも少しずつおこづかいを貯めて集めていった。それは！それは！めくりめく世界！感動の日々！いちいち新しい衝撃に胸打たれながら、曲を覚えていった。この感動！この感動を誰かと共有したい！そう思うのがく間だ。ところがプラスに吉田拓郎で盛り上がる人は誰もいなかった。テープを貸しても誰も分かってくれない。そうたった一人で吉田拓郎一筋という寂しい青春ではあった…